

WEEKLY SIGNAL

平成30年10月5日(金) 1444号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/8(月)	10/9(火)	10/10(水)	10/11(木)	10/12(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 1,000	+ 1,000	ト ン	△ 1,000
財政他		△ 1,300	△ 2,000	+ 3,000	△ 4,000
資金需給		△ 300	△ 1,000	+ 3,000	△ 5,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)		源泉税揚げ 国債発行(30年)
オペ期日		共通担保(全店) △ 2,100 補充供給 + 2,600 CP等買入 △ 200			
オベスタート	祝日	共通担保(全店) + 1,400 国債買入 + 2,700	CP買入 + 2,000		
(日本)		国際収支(8月) 景気ウォッチャー調査(9月)	機械受注(8月)	日銀桜井審議委員、講演(秋田市) 国内企業物価指数 前月比(9月)	日銀、マネーストック(9月) 日銀、営業毎旬報告(10月10日現在) 第3次産業活動指数(8月)
(海外)	米国祝日	IMF、世界経済見通し(WEO) 米ファイデラルリア連銀総裁、講演	米シカゴ連銀総裁、講演 米アトランタ連銀総裁、講演 米ニューヨーク連銀、講演 (インドネシア、バリ島) 米PPI(9月)	G20財務相・中央銀行総裁会議 (インドネシア・バリ島、12日まで) 米CPI(9月) 米新規失業保険申請件数 (10月6日終了週) 米財政収支(9月)	IMF・世銀の年次総会 (インドネシア・バリ島、14日まで) 米シカゴ連銀総裁、討論会に参加 米アトランタ連銀総裁、講演 米シカゴ大学消費者マインド指数 (10月、速報値) ユーロ圏 鉱工業生産(8月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初393兆1,500億円から始まった。3日には税・保険揚げを主因に386兆3,100億円まで減少、その後は国債買入オペ等を主因に増加し、386兆7,600億円を越えた。
無担保コールON物は、日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが、週末にかけて緩やかに高まる展開となった。同加重平均金利は週初△0.063%から始まり、その後は上昇を続け、週末4日積みである5日には△0.051%となった。
ターム物は1W~1M物を中心に、主に△0.035%~△0.020%の水準で出合が見られた。
1日に日銀より公表された9月の全国企業短期経済観測調査(短観)によると、業況判断指数(DI)が大企業・製造業でプラス19ポイントと、前回6月調査から2ポイント悪化した。同指数の悪化は、三四半期連続となった。
来週の主な予定は、国内では日銀桜井審議委員の秋田市での講演(11日)や、日銀による9月のマネーストックの公表(12日)などがあり、海外ではG20財務相・中央銀行総裁会議(11、12日)や、IMF・世銀の年次総会(12日から14日)などがある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.001
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,500億円で、週間償還総額の約2,000億円を大幅に上回った。発行市場は、中間期末で残高調整を行った商社や鉄鋼、石油業態の発行再開もあって連日発行超となり、活況であった。発行レートは、ディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合い。週末の発行市場残高は17兆7千億円弱となり、先週末比約1.7兆円の増加となった(先週末残:15兆9,960億円)。4日に、CP等買入オペが予定通り2,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.004%、平均落札レート△0.000%と前回(按分△0.015%、平均△0.009%)比で上昇した。
来週の償還総額は、3,200億円程度となっている。前週に引き続き、多くの企業での発行再開と5・10日発行が重なり、発行超となるだろう。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺での出合いを予想する。11日には、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

5日に行われた3M787回債入札は、最高落札レート△0.2679%(前回債△0.1860%)、平均落札レート△0.2847%(同△0.2031%)と前回からマイナス幅を大きく拡大。年末越え特有の担保需要に加え、円を有利に調達できる海外勢からのニーズが強かった。セカンダリー市場でも堅調に推移し、引けは△0.35%程度と入札水準を大きく下回る水準まで買い進まれた。
来週は9日に6M、12日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは、週末にかけて△0.10%~△0.11%で推移。5日受渡しでは△0.115%~△0.12%に小幅低下。週末は短国3Mの発行日であったが、レートが上昇する展開とはならず、△0.115%近辺の出合いとなった。
SC取引では10年351回債と、5年136回債のbidが多かった。10年351回債は△0.10%台前半~△0.20%近辺が出合いの中心。5年136回債は、3日の国債買入オペ後にレートが急低下。週末にかけて△0.60%台の取引が続いた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。